

平成28年度 山形県立農林大学校評価書

【運営方針4】開かれた農大づくり

【基本方向】地域との連携や貢献活動等による情報発信			【評価基準】 A:十分 B:概ね十分 C:やや不十分 D:不十分		
評価項目	評価目標	具体的方策と指標・基準等	取組状況	評価	成果と課題・次年度に向けた改善策
(1) 地域と連携した課題解決に向けた学生によるプロジェクトの実施(地域貢献プロジェクト)	プロジェクト実施数 :8課題	① 地域協働プロジェクトの実施(継続) 全学科の学生が主体となって「地域協働研究プロジェクト」に取組み、専攻分野における課題を調査し、地域の状況を把握しながら協働先、連携先を定め、課題への対応策の提案や地域活動を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> 各学科の学習内容を生かして、今年度は以下のとおり活動した (果樹経営学科) 最上さくらんぼブランド確立プロジェクト推進会議と連携し、結実確保に向けた現地実証、栽培研修会での園地提供、さくらんぼ品評会での参考出店等により、産地振興に向けた取組みを行った。 (野菜経営学科) 最上伝統野菜「勘治郎胡瓜」の生産者を対象とした研究成果の情報交換会(4回開催)、「石名坂かぶ」の優良系統選抜と種子保存の支援を行った。 (畜産経営学科) やまがた地鶏振興協議会の活動支援と飼料用米・麴の給与検討、地鶏のPR活動等に取り組んだ。 	1・・・B (プロジェクト実施数 :8課題)	<ul style="list-style-type: none"> (果樹経営学科) さくらんぼの現地実証園(舟形町、鮭川村)で人工受粉を実施したところ、結実確保が図られた。また、卒業論文の総まとめとして、農業技術普及課と連携し、栽培講習会で調査研究の成果を情報提供した。さらに、最上さくらんぼ品評会に参考出品し、品質等に高い評価を得た。次年度も関係機関と連携し、学生による結実確保対策を実施する。 (野菜経営学科) 「勘次郎胡瓜」の現地において安定生産が図られ、「石名坂かぶ」では優良系統の種子が確保され、産地に貢献した。次年度は、新たに地域から要望のあった「角川かぶ」の品質安定に向けた支援を実施する。 (畜産経営学科) やまがた地鶏の飼料用米・麴の給与効果検討をとおし、学生は生産から流通まで学習することができた。また、農大祭で地鶏を提供し、PR活動に努め、好評を得た。今後は給餌器を増やすなどの管理方法の改善を行い、個体差の解消を図る。
	地域と連携した取組み数 :3課題	② 地域と連携した取り組み(継続) 肘折温泉女将会と連携した山菜の食まつりへの参画等、農や食に関する品評会への出品や運営スタッフとしての学生参加を通し、当校の学習成果を紹介する。	<ul style="list-style-type: none"> 稲作経営学科では、卒論成果品である「つや姫の有機米」を「真室川町米・食味分析鑑定コンクール」に出品した。 農産加工経営学科では、肘折温泉女将会と連携した山菜料理交換会に参加した。また、鮭川村きこの王国祭りにおいて高校生とのファーストフードコンテストに参加した。 	2・・・B (地域と連携した取組み数 :3課題)	<ul style="list-style-type: none"> 稲作経営学科の学生が出品した「つや姫の有機米」が「金賞」を受賞した。来年度、真室川町で開催される、「第19回米・食味鑑定コンクール国際大会」にも協力する計画である。 肘折温泉女将会との山菜料理交換会と鮭川村きこの王国祭りのファーストフードコンテストは、学生らしい斬新なアイデアの山菜料理を提供した。次年度も参加する計画である。
(2) 学生のボランティア活動への支援	取組み数 :5取組	① 学生主体の地域貢献活動支援(継続) 学生が社会経験を積むことにより、今後の学習や進路選択に生かせるよう、学生のボランティア活動を支援する。(共進会等へ運営スタッフとして参加、品評会等への出品・出展、さくらんぼサポーター活動、交通安全の街頭啓蒙活動、新庄市中心商店街イベントへ運営スタッフとして参加等)	<ul style="list-style-type: none"> さくらんぼシーズンの労働力支援として、学生ボランティアサークルが中心となって「さくらんぼサポーター」を結成し、6月21日に東根市の園地で収穫・調整作業に取り組んだ。 「山形県農林水産祭・林業まつり」においては、林業経営学科の学生が青年林業士とともにクラフト作成の指導を行った。 関係機関や団体が開催する交通安全啓発(4月、9月)、新庄市中心商店街活性化事業(6月、10月)、新庄そばガールズ(8～11月)、献血啓発(12月)、高齢者世帯除雪支援(2月)、新庄雪まつり(2月)等について、学生会と学校が協力しながらボランティア活動を行った。 18歳選挙では、学生会と学校が協力し、学生への投票啓発活動を行った。 	A (取組み数 :8取組)	<ul style="list-style-type: none"> 「さくらんぼサポーター」として、学生9名(H27より3名増)が3園地(H27より1園地増)でボランティア活動し、いずれの園地でも好評を得た。参加学生からは、さくらんぼ主産地の栽培管理や雇用状況等の実態に触れることができたとの感想があった。次年度以降も、労働力確保が求められることから、活動継続の予定である。 専攻分野に関係するボランティア活動は、専門性が高く、生産～流通～販売までの幅広い学習ができる機会となっている。また、学生がスタッフとして、一般参加者に指導(補助)者として活動することで、学生は担い手としての認識を新たにしている。このため、次年度も職員同行のうえで関係機関・団体と連携しながら、積極的に参加していく。 その他、関係機関・団体から依頼のあるボランティア活動も、地域活性化等を目的に年々増加している。農大生が参加する啓発活動として評価を得ており、報道機関に取り上げられる機会も多い。このため、次年度以降も学生会と日程調整等を行いながら取り組んでいく。 18歳選挙では、学生会と協力して選挙に関する研修会、模擬投票を行い、選挙制度に対する理解を深めるとともに、投票所での立会人を務めた。さらに、期日前投票への送迎、帰省時の不在者投票及び当日投票の呼びかけを行った結果、農大生の投票率は81%となった。
		② 山形県産業技術短期大学校との交流活動の実施(新規) 今年度から山形県立産業技術短期大学校との交流活動を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 当校が事務局となって開催した「第7回農林業・食料・環境を考える山形県民シンポジウム」では、高校生、農大生、山形大学院生による意見発表・プロジェクト発表「山形の農林業を支える私たちの挑戦」及びパネルディスカッション「若者たちに伝えたい 森林(林)の恵み」を実施した。 山形県高校農業クラブ連盟の強化練習会が、当校を会場に開催された。また、高大連携実技講習会(果樹の夏期管理並びに冬期管理)を開催した。 	A (連携活動数 :8取組)	<ul style="list-style-type: none"> シンポジウムでは、当校学生が、意見発表とプロジェクト発表で、将来の抱負や卒論プロジェクトの成果を発表した。さらに、パネルディスカッションでは、林業経営学科教授がアドバイザーとして出演し、森林や環境等の現状・課題と対応策、生徒・学生らに期待すること等を紹介し、参加者及び生徒・学生の農林業に関する理解促進と学習意欲の向上につながった。次年度は、事務局となる山形大学農学部にも協力しながら開催する。 山形県高校農業クラブ連盟の東北大会及び全国大会での入賞を目指し、プロジェクト発表、意見発表の各出場者に対して助言指導を行った。また、高大連携実技講習会には、当校の職員・学生をはじめ、農業関係高校の職員も参加し、篤農家技術を学ぶことができた。次年度の活動内容については、連携強化推進会議で協議しながら実施する。
(3) 高大連携の交流活動の取組み	連携活動数 :5取組	① 高大連携活動の実施(継続) 県内の全農業関係高校、山形大学農学部との「高大連携事業」として「農林業・食料・環境を考える山形県民シンポジウム」及び高校の農業クラブ活動に対して、プロジェクト発表会や意見発表会での助言等を実施することにより情報共有と連携強化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 宮城県農業大学校の農大祭に参加し、生産物の販売を行ったほか、宮城農大生との交流を図った。 野菜経営学科では、岩手農大の学生11名と職員の訪問を受け、実習、卒論の取り組みや進路等について情報交換を行い、交流した。 	A (連携活動数 :8取組)	<ul style="list-style-type: none"> 両校職員等の相互訪問により、お互いの学習内容などを知る機会となった。今後は相互訪問の機会を増やし、専門分野の情報提供を行いながら、卒論プロジェクト等において「農・工連携」をすすめる。 当校の農産物・加工品は完売し、来場者に対して山形農大のPRの機会となった。次年度は、宮城農大も含め、他県の農大訪問についても、検討する。 次年度、野菜経営学科では岩手農大を訪問し、交流する計画である。
		③ 他県農大との交流活動の実施(拡充) 岩手農大との野菜経営学科の卒論の交流学習の充実を図る。また、今年度から宮城農大と連携した直売を実施する。			

<p>自己評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域連携プロジェクトでは、各プロジェクトとも協働先から一定の評価をいただいている。次年度に向けて、成果や実績を検討し、必要に応じてプロジェクト課題の見直しを行くとともに、在来野菜の産地課題解決のように、卒論テーマに反映されるような取組みも目指していく。 学生ボランティア活動は、学生が社会経験を積む場となっており、関係機関から評価をもらっている。取組件数が増加しているため、学生会等と相談しながら取り組んでいく。 高大連携の交流活動は、農林大学校の学生が就農、就職、進学に向けて取り組む学習の様子をPRできる機会であり、連携先と取組内容を協議しながら継続する。 	<p>評価</p> <p>B</p>
---	--------------------

<p>学校関係者評価(意見・要望等)→現在の取組状況・次年度の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> 山形大学農学部の先生方を講師として招き、学生への講義を実施してほしい。→農業・林業とも、山形大学農学部や地域教育文化学部等の先生方に講師を依頼し、専門性の高い講義を実施している。 	<p>評価</p> <p>B</p>
---	--------------------